対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

# 対馬丸 通信

Tsushima maru press

発　行：（財）対馬丸記念会
発行人：髙良　政勝
編　集：対馬丸記念会事務局

平成 24 年 10 月 30 日発行　第 25 号

作：大城立裕　演出：幸喜良秀

## 対馬丸の悲劇を新作組踊として公演！

## 11 月 11 日（日）琉球新報ホール　昼夜２公演

## 『海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～』

大城 立裕

昭和十九年の夏、沖縄から疎開学童を乗せて九州を目指していた対馬丸が、八月二十二日にアメリカの潜水艦の魚雷を受けて沈み、一六〇〇人あまりの命を失いました。その半数は学童です。この事件のことを日本の軍部は軍事機密として伏せていました。

那覇市久米国民学校、六年生の知念武志はかろうじて助かって家に帰りましたが、帰れなかった仲間の家族の嘆きに説明もできず、お母さんと一緒に苦しみます。金城（カナグシク）のおばあさんも大嶺のおじいさんも、自分の悲しみを堪えるために、ひたすら武志親子をいじめるだけです。

武志の同級生の八重子や道子は、やはり同級生の許田紀子が帰らないのを悲しみます。許田紀子がたくさん本を持っていて、それを借りて読んだことを話し合い、口惜しくてなりません。

許田紀子がいつかは帰ると、その両親が待ちかねているのを、武志のお母さんも、いつまでも気にしています。

学童疎開は、もともと日本軍と政府が、沖縄戦被害を減らすために計らったことですが、海では敵の潜水艦がいて「行くも地獄、残るも地獄」と覚悟されたのでした。疎開をつよく奨めたのは校長先生なので、いまとなっては校長の責任を問うほかはないと、大嶺のおじいさんは校長に怒鳴り込みます。

そこへ十月十日、那覇市の大空襲があり、対馬丸どころではなくなります。翌年の三月二十六日には、アメリカから大きな戦争が押し寄せてきます。対馬丸で生き残った人々も、どうなったでしょうか。とりあえず、武志の事情をご覧ください。劇の終わりに、武志のお母さんがこころから訴えます。よくお聴きください。

芥川賞作家の大城立裕氏が、新作組踊十番を発表しました。そのなかに対馬丸事件を題材とした作品があります。

演出の幸喜良秀氏をはじめ、各界からぜひ公演をという声が上がり、来る11月11日（日）に琉球新報ホールで昼夜2回の上演が決定しました。

平成24年9月23日　沖縄タイムスより

# 「対馬丸」題材に組踊

## 11月 琉球新報ホールで

太平洋戦争中、疎開学童ら約1500人が犠牲になった対馬丸事件を題材にした新作組踊が11月に上演される。「海鳴りの彼方（かなた）～対馬丸の子ら」で、大城立裕さん作、幸喜良秀さん演出。22日、那覇市の対馬丸記念館で会見した大城さんは「運命に立ち向かう悲しさ、強さ、チムグクルを書きたかった」と語った。

大城さんの過去の著作を基に、対馬丸が撃沈された場面よりも、前後の人々の悩みや苦しみに焦点を当てた。子役が「頑張ります」とあいさつするのを聞き、大城さんは「ウチナーグチの継承にもつながってほしい」と期待した。

演出した幸喜さんは「1944年の事件だが、ウチナーンチュは今も命を脅かされている。今後、この作品を地域や学校で上演してほしい」と要望した。

初上演は実行委員会（嶺井政治委員長）が主催し、11月11日午後1時半と5時からの2回、那覇市泉崎の琉球新報ホールで。子どもたちの歌と踊りも披露される。

一般・大学生の前売りは千円。問い合わせは記念館、電話098（941）3515。

対馬丸の新作組踊公演を発表した関係者＝22日、那覇市・対馬丸記念館

来年、学童疎開船「対馬丸」の悲劇から70年の節目を迎えるにあたり、対馬丸記念館の理念にもとづき、忌まわしき歴史の記憶と平和と命の大切さを子どもたちの目線から伝え続けて行くことを目的に本公演を企画いたしました。

沖縄の伝統芸能「組踊」を活かして誕生した、芥川賞作家大城立裕氏の新作組踊の上演を通して、対馬丸事件の悲劇の歴史とその教訓を風化させずに、子どもたちがより良く生きていける社会の実現を目指し、平和と命の大切さを永遠に伝え続けます。

日時：平成24年11月11日（日）
午後1時30分、午後5時
場所：琉球新報ホール
一般・学生（大学生）一〇〇〇円
児童・生徒（小中高校生）五〇〇円
主催：新作組踊「対馬丸」実行委員会

●第1部
明日を担う子どもたちによる「歌と踊り」
1.平和の歌 つしま丸児童合唱団
指導　高里千穂子
2.創作舞踊「てぃんさぐぬ花」
作舞・指導　玉城節子

●第2部　新作組踊
「海鳴りの彼方」～対馬丸の子ら～
配役　武志（少年11歳）比嘉克之、トシ（母35歳）山城亜矢乃、金城ハンシー（65歳）比嘉いずみ、大嶺ぬターリー（60歳）宇座仁一、八重子（少女11歳）嘉数千李、道子（少女11歳）渡嘉敷彩香、フミ子（母40歳）知花小百合、校長 神谷武史
地謡　西江喜春、玉城和樹、神谷大輔、翁長洋子、神谷和枝、久手堅直子　他

写真左より、
記者発表で思いを語る大城立裕氏と幸喜良秀氏
実行委員長の嶺井政治氏
第一部の、平和を担う子どもたちたちによる「歌と踊り」に出演する、つしま丸児童合唱団が歌声を披露

株式会社 山田養蜂場 代表取締役社長

# 山田英生氏より、平成20年度に続いて再び寄付金を頂戴いたしました

対馬丸記念館の平和活動並びに記念館運営の窮状にも心を寄せていただいております、山田英生氏（株式会社山田養蜂場代表取締役）が、平成19年度、20年度に続いて記念館を訪れ、高良政勝館長に寄付金を託しました。心より感謝申し上げます。

## 対馬丸記念館へ1000万円

### 山田養蜂場が寄付

山田養蜂場（本社・岡山県）の山田英生社長(55)は13日、対馬丸記念館の活動に役立ててほしいと1千万円の目録を対馬丸記念会の高良政勝会長(72)へ手渡した。2008年にも同額を寄付しており、記念会は紅型をあしらった感謝状を山田社長へ贈った。

山田社長は沖縄研修旅行中の社員30人と来館。妹の他界で悲しみを味わった経験があり、過去の子どもの犠牲を未来へ伝えることを大切にしている。

戦争についても「個人が感じる苦しみや痛みを国レベルで拡大生産するのが戦争。子どもの命を国家が奪った対馬丸事件は、戦争の狂気を本質的にあらわす」と記念館が活動する意義を強調した。

高良会長は「4年前の寄付がなければ今はない。亡くなった子どもたちの無念を晴らすため、厚意を大切にして記念館を永続させたい」と感謝した。

同館は昨年度の運営状況は赤字。今年は初めて県から770万円の事業費として補助を受けたが、運営は厳しい状況が続いている。

高良政勝会長（左）に目録を手渡す山田英生社長＝13日、対馬丸記念館

平成24年9月14日　沖縄タイムスより

# 平和願う歌声 発信

### 対馬丸記念館 児童合唱団を結成

つしま児童合唱団の結団式で英語遊びに興じる児童たち＝9日、那覇市若狭の対馬丸記念館

歌を通じて未来の平和な世界を担う子どもたちの豊かな心を育もうと、那覇市内の小学校児童たちによる「つしま児童合唱団」が9日、同市若狭の対馬丸記念館（高良政勝館長）で結成された。16日から活動を始め、8月には対馬丸慰霊祭に出演し、平和を願う歌声を発信する。

合唱団は対馬丸記念館が主宰するもので、1944年の対馬丸事件で犠牲になった児童が通っていた学校を中心に呼び掛けは、約40人が参加することになった。

活動は毎月第1～4土曜。合唱だけでなく相互理解が平和につながるという観点から、英語遊びも行う。

9日の結団式には入団する児童やその家族ら約70人が集まった。

児童は活動を記録するミュージックノートを受け取り、団員同士は早くも打ち解けた様子を見せていた。

若狭小5年の石原碧海（あおみ）さん(10)は「歌が好きだから入りたかった。合唱団では歌だけでなく英語遊びも頑張りたい」と16日からの活動を待ち遠しそうに話した。

平成24年6月12日　琉球新報より

## 響け平和の歌声！！

# つしま丸児童合唱団誕生

6月9日に、合唱や英語あそびの活動を通じて友達の和を広げ、平和の響きを広く発信するため、対馬丸と縁のある那覇市内の小学生を中心に、つしま丸児童合唱団を結団しました。

対馬丸で犠牲になった子供たちの奪われた夢や希望を、今の子供たちが表現できる居場所づくりを目指しています。

活動は、毎週土曜日午前9時から12時まで。

●合唱指導

高里千穂子先生・小橋川知美先生

●英語遊び指導

春山幸子先生・平良直美先生

# 平成二十四年度 対馬丸慰霊祭

八月二十二日　於 小桜の塔

つしま丸児童合唱団が鎮魂の歌声を奉納

今年もオオゴマダラが放蝶されました

## 弔辞

財団法人 対馬丸記念会　会長 髙良 政勝

本日ここに対馬丸慰霊祭を挙行するに当たり、謹んで御霊に申し上げます。

対馬丸沈没から六十八年、記念館建設から八年がたち、本日、九年目を迎えることができました。これも遺族の皆様の御力添えと、多くの方々の物心両面にわたるご支援のおかげであり、改めて深く感謝申し上げます。

昨年は、那覇市制施行九十周年事業の一環として、対馬丸事件を題材とした舞台劇「ぬち・どぅ・たから」を上演しました。三公演とも立ち見が出るほどの大盛況で、多くの皆様のご協力に感謝いたします。

記念館維持は入館料、協力会会費に加え、篤志家からの寄付に大きく頼って参りました。しかし現在国は法人組織の見直しを進めており、来年十一月までに新公益法人へ移行せねば記念館の維持は非常に困難になります。多くの夢と希望を抱いていた幼い子供たちが、国策のもとに犠牲になったことを決して忘れることなきようこの記念館を未来へ引き次いで行かねばならないと私たちは思っております。

しかし新公益法人移行に際しましては財政収支のバランスが大きな条件であります。私たちは記念館の窮状を沖縄県議会に訴え続けて参りました。その結果、昨年沖縄県議会九月定例会において満場一致で対馬丸記念会からの補助陳情が採択されました。ここに沖縄県知事を初め、県議会に深甚なる謝意を表します。また厳しい財政状況の中、内閣府よりの補助も今年度より増額していただき、新公益法人移行への基礎固めが整って参りました。

本年度より従来の事業に加え新しく二つの事業を実施することになりました。一つは平和学習連携事業であります。教育関係者や平和研究者と連携した平和推進のための活動を展開していきたいと思っております。二つ目は「対馬丸児童合唱団」の結成であります。同合唱団はすでに六月より団員五十名でスタートし、本日が合唱団結成後初の御披露目です。結成二ヶ月とは思えないほどの見事な歌声ではなかったでしょうか。毎週土曜日の午前中、合唱のみでなく、将来国際人としての活躍を期待し遊びを通し楽しく英会話も学んでおります。

また、沖縄の文化を大切にし、対馬丸殉難の歴史を後世に伝えていくために、芥川賞作家の大城立裕先生作の新作組踊「対馬丸」を来る十一月十一日に上演企画をしております。ぜひご観覧下さるようお願い致します。

さらに、那覇市役所の特別な計らいで今年度中に小桜の塔周辺が立派に整備される計画となっております。

何よりも、対馬丸記念館は慰霊と鎮魂の場にとどまらず、対馬丸の子供たちがなしえなかった夢と希望を実現する場、平和の殿堂としてその存在感を高めることが、なき皆様への何よりの供養と思っております。

御霊の安らかならんことを祈念し、追悼の言葉といたします。

第18回対馬丸記念会特別展

# 絵日記に見る戦時疎開の子供たち

## ―東京の子供たちの600日の記録―

### 特別展を終えて

慶田盛さつき（学芸員）

絵日記という誰もが一度は描いたことのある身近な資料を介して、子供たちの目線で描かれた戦時疎開600日の記録「絵日記に見る戦時疎開の子供たち」展。これは、東京女子高等師範学校附属国民学校（現在のお茶の水女子大学付属小学校）の学童集団疎開の子供たちが、疎開へ出発し解散するまでの600日間を1日も欠かさず描き続けた、時代の貴重な記録である。

1944（昭和19）年8月21日、子供たちは学校で壮行会を終えると、親たちの見送る中疎開地へと出発した。偶然にも、対馬丸の子供たちが那覇港を出航した日と同じ日に・・・

最初の疎開地は学校の久米川郊外園、しかし空襲の激しさに伴い富山県福光町へ再疎開、さらに終戦後も焼野原と化した東京の我が家へ帰れずしばらく疎開生活が続いた。

絵日記には、親元から離れて集団生活をする子供たちの家族への想い、防空訓練や空襲下での不安・寂しさ、食糧難による空腹の辛さ、吹雪の中での食糧運び、ノミやシラミに悩まされる日々、それでも時々行われる演芸会や面会日の楽しみなどが描かれている。また、授業でも子供たちへ戦況が伝えられ「沖縄もとうとう敵の手に　悔しい！」や終戦後は「もっと科学の勉強を進めてアメリカより上にならなくては」など状況の変化と共に少国民としてより強くなっていく心境が描かれ、戦争へ巻き込まれていく子供たちの様子が貴重な日々のドキュメントとなって見えてくる。

「私たちの体験など、沖縄の疎開事情に比べると辛いなどと言えるものではない」。絵日記を書いた一人で、今展示会へ資料を貸出して頂いた平和祈念プロジェクト21の美川代表の言葉。例え疎開状況は違うと言え、幼い子供たちが親元を離れ慣れない集団生活で、空腹と寒さの中寂しい思いを体験したことには変わりはない。弱い立場の子供たちが強いられた事実がそこにある。

また、今展示会では実物の絵日記と手紙も展示した。角は丸く背表紙は擦り切れ、ほろほろとちぎれそうなもろい材質で、裏紙を和綴りにして使ったり、低学年用のノートを1マス4等分して文字を小さく書いて使ったり、物資に乏しい中で工面して大切に使っていたことが見て取れる。そして、1字1字しっかりとした筆圧で書かれた文字や小さなスペースにも丁寧に描かれた描写的な絵などからは、子供たちの絵日記に込めた思いを感じ、ほろほろの紙から浮かび上がる未来へのメッセージのようにも見える。

今展示会への来場者は、半数近くが家族づれであった。日記という身近な資料を通して子供の目線で描かれた戦時疎開の記録は、家族の絆や人と人との繋がりなど人間味ある表情などが垣間見える展示内容で、またこれまでと違った視点で平和について考える貴重な機会になったのではないかと思う。これらの資料を、大切に保管・管理し、自らその資料と共に体験を記録として残し「時代の証言者」として伝える活動を行う平和祈念プロジェクト21の皆さまには、本当に頭の下がる思いであり、今展示会での多大なるご協力・ご指導へ心から感謝を申し上げたい。

## 視察

**□4月17日**

内閣府沖縄政策担当（総括）山本茂樹 参事官、同 参事官（総括担当）付 大部沙絵子 企画調整第一担当主査

**□4月20日**

内閣府沖縄振興局（特定事業担当）原 典久 調査官、同 参事官（特定事業担当）付 仲里 直 主査

**□6月5日**

沖縄県福祉保健部 崎山八郎部長、同 垣花芳枝 福祉企画統括官、同福祉・援護課 又吉 剛 援護班長

**□6月12日**

内閣府沖縄振興局（特定事業担当）原 典久 調査官、内閣府沖縄振興局 参事官（特定事業担当）付 佐藤正人 参事官補佐

**□9月19日**

内閣府沖縄振興局 山根英一郎総務課長

## トピックス

**□6月23日・8月22日**

那覇市内の中高校生による、那覇青少年舞台プログラムのメンバーが、慰霊の日の6月23日と対馬丸の慰霊祭が行われた8月22日の両日、記念館前の広場と階段、屋上を使って劇と詩の群読、歌と踊りを交えた平和イベント（那覇群星の会主催）を開催しました。

戦争を知らない若い世代が、67年前の沖縄戦に思いをはせながら平和を訴える力強い踊りや歌とともに「平和を約束するよ」という詩の群読が響き渡り、通り合わせた観客や慰霊祭参列者に大きな声で誓いました。

**□8月8日**

今年度より新たに始まった平和事業として、学校現場と対馬丸記念館が連携して取り組むための「平和学習推進連携事業」委員会の第1回会合が開かれました。

同事業では、次年度に向けて事業計画の作成や対馬丸記念館学習用教材などについてまとめる予定です。

委員に委嘱されたのは以下の方々です。

那覇市教育委員会学校教育課
指導主事 徳門敦子氏（委員長）
那覇市立若狭小学校
教諭 中村明美氏
那覇市立上山中学校
教諭 武石紀子氏
財団法人沖縄県平和祈念財団
主査 平田守氏
対馬丸記念館
館長 高良政勝

**8月18日**

対馬丸事件を題材とした混成合唱組曲『海のトランペット～対馬丸の子供たち～』を歌い継いでいる、クリスタルコールおきなわが中心となった合唱イベント、**『復帰40周年記念 命と平和・魂ゆさぶるコンサート』**が浦添市てだこホール（小ホール）で開催され、平和の歌声がホールいっぱいに響き渡りました。

途中、高良政勝館長が平和トークを行い、対馬丸事件や自らの体験と対馬丸記念館のことを語りました。

**8月21日**

平成24年度慰霊祭を前に、対馬丸記念館において今年度寄託された遺影の掲示と、犠牲者の追加刻名を行いました。

平成24年8月22日現在の氏名判別刻名者数一四八二名（追加六名）遺影二八五枚・三一三名（追加四名）となりました。

**□8月18日～9月2日**

**第18回特別展「絵日記に見る戦時疎開の子供たち―東京の子供たちの600日の記録―」**を実施しました。（別掲記事参照）

## 新職員

今年度、新たなスタッフとして、上原徹専門員、慶田盛さつき学芸員、山里典子事務員が加わりました。

## ご寄附

**□香典返し**

長い間対馬丸語り部として活躍いただきました、故儀間真勝様のご令室、儀間幸子様より香典返しとして金十五万円を頂戴いたしました。

**□3月18日～9月30日**（日付順）

石原みどり、宗教法人阿含宗、泊先覚先覚顕彰会、瑞慶山良和、上原清、羽太勝子、儀間真人、田中スミ子、松田政勝、木崎悦郎、平良啓子、平良真八税理士事務所、儀間幸子、親泊康彦、金城節子、外間邦子、渡口眞常、安室尚恵、屋比久嘉光、ぶどうの木保育園、池宮真、田中弘幸、仲田清一郎、小泉治重、高良政勝、たから歯科、砂川みさ子、渡口真悟、小野俊子、慰霊祭ご香典、信ケ原千恵子、琉智歌謡スタジオ、山田英生。以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。